

■ カリキュラム (教育課程)
介護福祉別科

介護福祉別科カリキュラム目次

No.	領域	指定科目	授業科目名	担当教員	
1	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	宮元	
2		人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	宮元	
3			人間関係とコミュニケーションⅡ	宮元	
4		社会の理解	社会の理解Ⅰ	宮元	
5			社会の理解Ⅱ	宮元	
6		人間と社会に関する科目	健康と介護予防	斎藤尚美	
7			多文化共生社会とコミュニケーションⅠ	山田美香	
8			多文化共生社会とコミュニケーションⅡ	山田美香	
9	介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	宮元	
10			介護の基本Ⅱ	内田	
11			介護の基本Ⅲ	内田	
12			介護の基本Ⅳ	竹中 小松原賢治	
13			介護の基本Ⅴ	内田	
14		コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	天野	
15			コミュニケーション技術Ⅱ	天野	
16		生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	天野	
17			生活支援技術Ⅱ	内田 天野	
18			生活支援技術Ⅲ	内田 天野	
19			生活支援技術Ⅳ	天野	
20			生活支援技術Ⅴ	小林駿仁	
21		介護過程	介護過程Ⅰ	天野	
22			介護過程Ⅱ	天野	
23			介護過程Ⅲ	天野	
24		介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	天野(他介護教員)	
25			介護総合演習Ⅱ	天野(他介護教員)	
26			介護総合演習Ⅲ	天野(他介護教員)	
27		介護実習	介護実習Ⅰ	天野(他介護教員)	
28			介護実習Ⅱ-1	天野(他介護教員)	
29			介護実習Ⅱ-2	天野(他介護教員)	
30		こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	竹中
31				こころとからだのしくみⅡ	竹中
32				こころとからだのしくみⅢ	竹中
33				こころとからだのしくみⅣ	角川
34			発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	竹中
35				発達と老化の理解Ⅱ	竹中
36			認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	角川
37				認知症の理解Ⅱ	角川
38	障害の理解		障害の理解Ⅰ	内田	
39			障害の理解Ⅱ	内田	
40	医療的ケア		医療的ケア	医療的ケアⅠ	角川
41		医療的ケアⅡ		竹中・角川	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 宮元預羽	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。生活支援の重要な方法である生活支援技術において、 <u>人間の尊厳と自立</u> がどのように活かされているかを学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 人権思想・ <u>福祉理念</u> の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。真の <u>自立の概念</u> と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 具体的な生活場面の事例をもとに、高齢者や障害を有する人々の <u>尊厳の保持と自立支援</u> について基本となる考え方を理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体	講義
2		人権思想の潮流とその具現化	
3		人権や尊厳に関する日本の諸規定	
4		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①	
5		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②	
6		人権尊重と権利擁護	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想から人間の尊厳について学ぶ	演習
8		介護保険法における尊厳と自立を考える	
9	自立のあり方	自立の概念の多様性	講義
10		自立とは	
11		介護を必要とする人の自立と自立支援	
12		介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	
13		利用者の主体性を大切にされた声かけを考える	
14	利用者の自立支援について考える	演習	
15	まとめ	まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」 第2版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%・演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション I	授業の種類 (<u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・実習)	授業担当者 宮元預羽	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間関係の形成のために必須である人間の関係性を理解し、<u>関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識</u>を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実践の為に必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な<u>コミュニケーションの基礎能力</u>を養うための学習をする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえた<u>コミュニケーションの意義や機能を理解</u>できる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	人間と人間関係	人間の誕生と介護の関係・自分と他者の理解	講義
2		発達心理学からみた人間関係	
3		社会心理学からみた人間関係	
4		人間関係とストレス	
5		自分と他者の認識のずれについて考える	演習
6	対人関係におけるコミュニケーション	コミュニケーションの概念・基本構造・手段	講義
7		関係性によるあいさつの違いと、含まれるメッセージについて考える	演習
8	対人援助関係とコミュニケーション	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	講義
9		対人援助における基本的態度	
10		援助的人間関係の形成とバイステックの7原則	
11		傾聴について考える	演習
12	組織におけるコミュニケーション	組織の条件とコミュニケーションの特徴	講義
13		組織における情報の流れ・求められるコミュニケーション	
14		ブレインストーミング	演習
15	まとめ	まとめと振り返り	講義
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規 最新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」 第2版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>3分の2以上の出席は必須。定期試験70%・演習30%により総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーションⅡ	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 宮元預羽	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年後期	(必修)・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>施設職員である介護福祉士の自己の役割と組織の一員であることを理解し、介護サービスを提供する経営主体(法人)において、理念に基づいた<u>チームマネジメント</u>を行う能力を養う。また、良質な<u>チームマネジメント</u>を提供するための基盤となるチームワークの意義と構築のための方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実践を<u>チームマネジメント</u>するために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基礎を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>理念に基づく<u>チームマネジメント</u>の基礎、管理者・マネージャー・リーダー・フォロワーそれぞれの責任と果たすべき役割を理解できる。チームワークとリーダーシップの実践的なあり方についての理解を深める。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護実践における チームマネジメントの意義	ヒューマンサービスとしての介護サービス	講義
2		介護現場で求められるチームマネジメントとその取り組み	
3		介護サービスと他の仕事との違いについて考える	演習
4	ケアを展開するための チームマネジメント	ケアを展開するために必要なチームとその取りくみ	講義
5		チームの力を最大化するためのマネジメント	
6		リーダーシップ・フォロワーシップについて考える	演習
7	人材育成・自己研鑽 のためのチーム マネジメント	介護福祉職のキャリアと求められる実践力・キャリアデザイン	講義
8		介護福祉職のキャリア支援・開発	
9		自己研鑽に必要な姿勢	
10		スーパービジョンについて理解する①	演習
11	スーパービジョンについて理解する②		
12	組織の目標達成の ためのチーム マネジメント	介護サービスを支える組織の構造	講義
13		介護サービスを支える組織の機能と役割・管理	
14		組織の理念について考える	演習
15	まとめ	まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、演習への参加姿勢等30%を総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解 I	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 宮元預羽	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、 <u>生活と社会のしくみの関係性</u> を体系的に捉え理解を深める。 2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を理解する。 3. 社会保障の役割や意義、理念と範囲、 <u>社会保障制度</u> の発展の歴史、制度全体のしくみ、現代社会における社会保障の位置づけと今後の課題について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 1. 個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりについて学ぶ。 2. 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、実現のためのエイドや施策を学ぶ。 3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. データをもとに変化するライフスタイルについて学ぶことで、社会と生活のしくみが理解できる。 2. <u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> が理解できる。 3. 社会保障の考え方、役割や制度について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	社会と生活のしくみ	生活の機能	講義
2		ライフスタイルの変化	
3		家族の機能と役割	
4		社会・組織の機能と役割	
5		地域、地域社会	
6		地域社会における生活支援	
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域福祉の発展	
8		地域共生社会	
9		地域包括ケア	
10	社会保障制度	社会保障の基本的な考え方1	
11		社会保障の基本的な考え方2	
12		日本の社会保障制度の発展	
13		日本の社会保障制度のしくみ	
14		現代社会と社会保障制度	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」 第3版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%・授業態度・レポート等30%により総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 宮元預羽	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 介護保険制度の体形を理解し、介護の仕事に携わるうえでの基本的な制度のしくみや運用について理解を深める。また、障害者総合支援法を中心とした障害者支援の制度やじりについても理解を深める。			
[授業全体の内容の概要] 介護保険制度および障害者自立支援制度についてサービス利用の流れ等、基本を理解する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護保険制度の考え方、意義や目的について理解できる。 2. 障害者の自立と障害者自立支援制度の目的・しくみ・役割について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	高齢者保健福祉 と介護保険制度	高齢者保健福祉の動向	講義
2		高齢者保健福祉に関連する法体系	
3		介護保険制度創設の背景と目的	
4		介護保険制度のしくみの基本的理解	
5		介護保険制度のしくみの組織、団体、介護支援専門員の役割	
6		介護保険制度の動向	
7	障害者保健福祉 と障害者総合支 援制度	障害者福祉の現状と動向	
8		障害者福祉の歴史・障害者保健福祉の法律	
9		障害児に対する支援制度	
10		障害者総合支援制度のしくみの基礎的理解①	
11		障害者総合支援制度のしくみの基礎的理解②	
12		介護保険制度と障害者総合支援制度の比較	
13	介護実践に関連 する諸制度	個人の権利と保健医療	講義
14		貧困対策と地域生活の支援	
15	まとめ	振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」 第3版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%・授業態度・レポート等30%により総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 健康と介護予防	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 齋藤尚美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年後期	
(必修・選択)			
[授業の目的・ねらい] 1. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。 2. 健康の維持・増進のための運動やスポーツの意義を理解する。さらにレクリエーション活動を通して、誰もが楽しめる身体活動を立案・実践する。 [授業全体の内容の概要] 豊かな人間性を持った介護の実践者となるために、対象者のQOLを高めるための基礎的能力(年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識)を理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 身体運動の必要性及び重要性について理解し、説明できる。 2. 対象者の状態に合わせたレクリエーションの計画立案と安全を留意した運動指導ができる。 3. 対象者が楽しく参加できる身体運動を支援するためのコミュニケーション能力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	オリエンテーション・身体運動の重要性の理解	授業の内容についての説明及び身体運動の重要性についての解説	講義
2	体力測定実習 I	高齢者を対象とした体力測定の実践方法と評価について実施および解説	講義 演習
3	実技プレゼンテーション	ストレッチング・立位・座位・仰臥位・伏臥位	
4	実技オリエンテーション	体力測定 (体重・身長・長座体前屈・開眼片足立等)	
5	筋力トレーニング	体幹トレーニング	
6	体力づくり PART 1	簡単エアロビクス (リズムトレーニング)	
7	体力づくり PART 2	椅子を利用した体操	
8	体力づくり PART 3	アジリティ、脳活性トレーニング	
9	体力測定実習 II	高齢者を対象とした体力測定の実践方法と評価について実施および解説	
10	レクリエーションスポーツ PART 1	高齢者のためのレクリエーション及び身体運動の実践	
11	レクリエーションスポーツ PART 2	高齢者のためのレクリエーション及び身体運動の実践	
12	レクリエーション支援の展開と方法	グループでレクリエーションを計画、発表	
13			
14			
15	レクリエーション計画発表		
[使用テキスト・参考文献] 適宜資料等を配布		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。 定期試験 70%・授業態度・出席状況・演習 30%により総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 多文化共生社会とコミュニケーション I		授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)		授業担当者 山田美香	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択		
[授業の目的・ねらい] さまざまな文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しあい、共生する必要性を理解し、国際的な視野や社会福祉的視野を養う。					
[授業全体の内容の概要] 多文化共生の必要性と日本文化を学び、介護福祉を学ぶ留学生や日本人学生および地域の方々と交流を通して、共生する必要性を体現する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 多文化共生の必要性を理解する。 2. 言語的コミュニケーションを中心としたコミュニケーションをとることができる。 3. 地域の方々との交流をもって学んだことを、明確に伝えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	テーマ	授業内容		方法	
1	自己紹介	他の文化や価値観をもつ方々に自己紹介する		講義	
2	多文化共生とは	多文化共生に係る我が国の現状を理解する		演習	
3	共生思想を考える	グローバルな視点で共生思想を考える		演習	
4	人権保障の国際化	国際的におきているできごと、について考える		講義	
5	コミュニケーション	コミュニケーションの基本		講義	
6	異文化コミュニケーション (1)	異文化間でコミュニケーションを取る必要性		講義	
7	異文化コミュニケーション (2)	異文化コミュニケーションの方法		演習	
8	病者と老いとの共生1	誰でも病者、高齢者となりうることを理解する		講義	
9	病者と老いとの共生2	病者や高齢者への配慮を考えることができる		演習	
10	自分と異なる文化と状況	【ワーク】こんなときどうする? (1)		演習	
11		【ワーク】こんなときどうする? (2)			
12		【ワーク】こんなときどうする? (3)			
13	日常生活	日常生活におけるコミュニケーション		演習	
14	家族	家族とのコミュニケーション		演習	
15	社会生活	社会生活上に必要なコミュニケーション		演習	
[使用テキスト・参考文献] ・「場面から学ぶ介護の日本語 本冊」 (海外産業人材育成協会 (ATOS) 凡人社			[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験50%・課題演習等50%により総合評価とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 多文化共生社会とコミュニケーションⅡ		授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)		授業担当者 山田美香	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年後期	(必修)・選択		
[授業の目的・ねらい] さまざまな文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しあい、共生する必要性を理解し、社会福祉的な実践を通して学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 多文化共生の必要性と日本文化を学び、介護福祉を学ぶ留学生や日本人学生および地域の方々と交流を通して、共生する必要性を体現する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 多文化共生とは何か、を具体的に説明することができる 2. 多文化共生に配慮したコミュニケーションをとることができる。 3. 地域の方々との交流をもって学んだことを、地域で実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	テーマ	授業内容		方法	
1	人間共生学とケア (1)	なぜケアに共生の考え方が必要なのか		講義	
2	人間共生学とケア (2)	ケアの現場に共生の指導を活かす		講義	
3	職務の理解 (1)	介護に関連するサービスの種類と内容		講義	
4	職務の理解 (2)	多文化共生に係る我が国の現状を理解する		講義	
5	異文化コミュニケーション (1)	異文化間で活かすコミュニケーション		演習	
6	異文化コミュニケーション (2)	異文化間で行われているコミュニケーションの手段		演習	
7	介護の基本 (1)	地域包括ケア		演習	
8	介護の基本 (2)	障害者総合支援法		講義	
9	介護の基本 (3)	介護と医療の連携		演習	
10	病者と老いとの共生	【ワーク】こんなときどうする? (1)		演習	
11		【ワーク】こんなときどうする? (2)			
12		【ワーク】こんなときどうする? (3)			
13	報告・連絡・相談	業務記録によりコミュニケーション		演習	
14		日記や依頼書などによるコミュニケーション		演習	
15		Eメールによるコミュニケーション		演習	
[使用テキスト・参考文献] ・場面から学ぶ介護の日本語 本冊) (海外産業人材育成協会 (ATOS) 凡人社			[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験50%・課題演習等50%により総合評価とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I	授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)	授業担当者 宮元 預羽																																											
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択																																										
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援していく専門職として、基本となる考え方を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 「自立に向けた介護」を歴史的に理解し、「生活支援としての介護」の役割や専門性を学ぶ。また、介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識や技術について学ぶ。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護福祉士を取り巻く状況を踏まえ、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できる。 2. 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、 <u>介護福祉士の役割と機能</u> を理解できる。 3. 介護福祉士を支える団体について理解できる。																																													
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 35%;">テーマ</th> <th style="width: 50%;">授業内容</th> <th style="width: 10%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>介護福祉を取り巻く状況</td> <td>介護の歴史と介護福祉を取り巻く状況</td> <td rowspan="15" style="text-align: center; vertical-align: middle;">講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="6">介護福祉の歴史</td> <td>老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1970年代から1980年代①</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1970年代から1980年代②</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1990年代から2000年以降①</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1990年代から2000年以降②</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="2">介護福祉の基本理念</td> <td>介護福祉の理念</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>尊厳と自立を支える介護</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会福祉士及び介護福祉士法</td> <td>社会福祉士及び介護福祉士法と関連する制度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="3">介護福祉士の活動する場と役割</td> <td>地域包括ケアシステム・介護予防・医療的ケア</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>人生の最終段階の支援</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>災害時の支援</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="2">介護福祉士に求められる役割とその養成</td> <td>介護福祉士教育と求められる役割の拡大</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本介護福祉士会</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめと振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	授業内容	方法	1	介護福祉を取り巻く状況	介護の歴史と介護福祉を取り巻く状況	講義	2	介護福祉の歴史	老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策	3	1970年代から1980年代①	4	1970年代から1980年代②	5	1990年代から2000年以降①	6	1990年代から2000年以降②	7	介護福祉の基本理念	介護福祉の理念	8	尊厳と自立を支える介護	9	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法と関連する制度	10	介護福祉士の活動する場と役割	地域包括ケアシステム・介護予防・医療的ケア	11	人生の最終段階の支援	12	災害時の支援	13	介護福祉士に求められる役割とその養成	介護福祉士教育と求められる役割の拡大	14	日本介護福祉士会	15	まとめ	まとめと振り返り			
回	テーマ	授業内容	方法																																										
1	介護福祉を取り巻く状況	介護の歴史と介護福祉を取り巻く状況	講義																																										
2	介護福祉の歴史	老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策																																											
3		1970年代から1980年代①																																											
4		1970年代から1980年代②																																											
5		1990年代から2000年以降①																																											
6		1990年代から2000年以降②																																											
7		介護福祉の基本理念		介護福祉の理念																																									
8	尊厳と自立を支える介護																																												
9	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法と関連する制度																																											
10	介護福祉士の活動する場と役割	地域包括ケアシステム・介護予防・医療的ケア																																											
11		人生の最終段階の支援																																											
12		災害時の支援																																											
13	介護福祉士に求められる役割とその養成	介護福祉士教育と求められる役割の拡大																																											
14		日本介護福祉士会																																											
15	まとめ	まとめと振り返り																																											
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 第3版 「介護の基本 I」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。																																											

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内田智美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年後期	必修・選択
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の理解を深め人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解を深め、介護を必要とする人の生活環境の考え方や生活を支える仕組みを学び、生活の視点から知識を深めることを目標とする			
[授業全体の内容の概要] 高齢者や障害をもった人たちなど介護を必要とする人たちの「暮らし」や「生活ニーズ」理解する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 利用者の「生活ニーズ」を理解し「その人らしさ」を大切にする介護を考えることができる。 2. 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組みが理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	私たちの生活の理解	生活とは何か：「時間」「空間」「生活のリズム」の相互関連	講義
2		生活の構成要素と特性：「生活の違い」について	
3	介護福祉を必要とする人の理解	高齢者の理解	
4		障害をもった人たちの理解	
5		個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点	
6	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	「その人らしさ」とは	
7		「生活ニーズ」の理解	
8		生活のしづらさについて考える	
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	地域共生社会	
10		地域包括ケアシステム	
11		高齢者の生活を支える社会的サービスとは	
12		障害者の生活を支える社会的サービスとは	
13		生活を支える私的サービスとは	
14		地域連携	
15	まとめ	振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座3 第3版 「介護の基本Ⅱ」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅲ	授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)	授業担当者 内田智美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年後期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 尊厳を支える介護を実践するための <u>介護福祉士の倫理</u> を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を習得する。またエンパワメントの観点から個々の状態に応じた <u>自立</u> に向けた介護を実践するための考え方やその方法を理解する。			
[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基盤である倫理にもとづき、介護福祉士の大きな役割である自立支援について介護実践の基礎を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. <u>介護福祉士の倫理</u> の具体的な考え方を理解する。 2. 介護福祉における具体的な <u>自立</u> の考え方を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護福祉士の倫理	介護実践における倫理	講義
2		事例から考える	
3	日本介護福祉士会の倫理綱領	介護福祉士に求められる職業倫理①	
4		介護福祉士に求められる職業倫理②	
5		日本介護福祉士会倫理綱領	
6	介護福祉における自立支援	意思決定支援・生活意欲と活動	
7		就労支援・自立と生活支援	
8	ICFの考え方	介護におけるICFのとらえ方	
9	自立支援とリハビリテーション	リハビリテーションとは・リハビリテーションの実際	
10		リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価	
11		リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方	
12		リハビリテーションにおける介護福祉士の役割・理念	
13	自立支援と介護予防	介護予防の概要・種類と展開・実際	
14		介護予防における介護福祉士の役割	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座3 第3版 介護の基本 I		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅳ	授業の種類 (<u>講義</u>) ・ (<u>演習</u>) ・ 実習)	授業担当者 竹中ツネ 小松原賢治	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年後期	<u>必修</u> ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 介護における安全の確保とリスクマネジメントの考え方を理解し、介護場面での事故および感染症対策の実際や具体的な手法を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 利用者にもっとも身近な介護従事者が安全に介護の理念を実現するために、既習の倫理・知識・技術を統合し利用者や生活の観点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連づけ、多様な介護現場で利用者の生活を守るべくセーフティマネジメントを展開する為の基礎的な力を培い、応用力を高める。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護における安全の確保の重要性とリスクマネジメントの考え方が説明できる。 2. 介護場面での事故および感染症対策の実際や具体的な手法が説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護における安全の確保	介護における安全の確保の重要性	講義
2		安全確保のためのリスクマネジメント	
3	事故防止、安全対策介護に携わる人の健康管理	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント	
4		事故発生時の対応	
5		事故報告の事例	
6		リスクと対策の実際	
7		介護職の健康管理・労働安全対策	
8	感染症対策	介護福祉職に必要な感染に関する知識	講義
9		生活の場における感染症対策	
10		介護福祉職の健康管理	
11		標準予防策	
12		感染対策の適切な考え方とその普及	
13		感染症発生時の対応	
14		薬剤耐性の知識	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 4 第3版 「介護の基本Ⅱ」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本V	授業の種類 (<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者 内田智美	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年後期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実践における関連職種および機関の連携による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する<u>他の職種の専門性や役割と機能</u>を理解する。またチームで介護を必要とする人を支える観点から権利擁護や個人情報保護など介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>多職種が連携する必要性や多職種の役割について事例等をもとに理解する。尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の考え方についても事例をもとに講義及び演習によって学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連職種および機関の連携について説明できる。 2. 尊厳と自立をかかわる社会福祉の制度・施策の意義や目的について理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働を要請する社会の動き、なぜ必要なのか	講義 演習
2, 3		多職種連携・協働を阻むもの、効果	
4	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携・協働が必要とされる意味とチームづくり	
5		多様な視点と受容を必要とする協働	
6		問題解決に対する多職種のかかわり	
7		多職種連携を成功させるための介護技術と知識	
8		多職種連携とホスピタリティ的視点	
9		多職種連携に求められるコミュニケーション能力	
10		保健・医療・福祉職の役割と機能	
11	保健・医療・福祉職の役割と機能②社会福祉士・精神保健福祉士		
12	保健・医療・福祉職の役割と機能③ケアマネジャー		
13	保健・医療・福祉職の役割と機能④サービス提供責任者		
14	保健・医療・福祉職の役割と機能⑤作業療法士		
15	保健・医療・福祉職の役割と機能⑥言語聴覚士		
16	多職種連携・協働の実際	多職種連携実践とは何か	
17		多職種における地域での連携・協働	
18		特別養護老人ホームの連携の実態調査から	
19		自立支援介護における多職種連携の実際	

20	個人の権利を守る制度	虐待防止に関する制度	
21	る制度	サービス利用に関する制度	
22	保健医療に関する制度	保健医療に関する制度	
23		生活習慣病の予防・対策に関する制度	
24		結核・感染症の予防・HIV/エイズの予防・対策に関する制度	
25	貧困と生活困窮に関する制度	生活保護法、	
26		生活困窮者自立支援法	
27	地域生活を支援する制度	就労支援・雇用促進に関する制度	
28		住生活を支援する制度	
29		自殺を予防する制度	
30	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 第3版 (第1回～20回) 最新・介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」 (第21回～29回) 最新・介護福祉士養成講座2 「社会の理解」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I	授業の種類 (<u>講義</u>)・(<u>演習</u>)・実習)	授業担当者 天野光代	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的、介護技術とコミュニケーションの関係性について理解を深める。</p> <p>2. 対人援助職としての介護福祉士が利用者や家族とかかわる場合におけるコミュニケーション技法についての理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>様々な介護場面において、専門家として適切な支援を行う為には、<u>利用者や家族、他の専門職との高いレベルのコミュニケーション技術</u>が必要となる。そのため、<u>介護職には高いレベルのコミュニケーション技術が要求されることになる</u>。この授業では、<u>介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本</u>（話を聴く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法等）の修得を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>対人援助の専門職として、コミュニケーションの果たす役割と目的について理解し、具体的な技法についてもその目的や効果を理解し、演習を通し具体的な活用法を実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護におけるコミュニケーションの基本	介護におけるコミュニケーションの意義と目的と展開方法	講義 演習
2		介護におけるコミュニケーションの役割	
3		援助関係を構築するための原則	
4		介護における援助関係を意識したコミュニケーション	
5	コミュニケーションの基本技術	傾聴	
6		受容	
7		共感	
8		パーソナルスペース	
9		言語コミュニケーション	
10		非言語・準言語コミュニケーション	
11		動機づけ	
12		ものの見方に変化を生み出す技術	
13		意思決定を支援するためのコミュニケーション	
14		集団でコミュニケーションをはかる意義	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座5 第2版 「コミュニケーション技術」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 (<u>講義</u>)・(<u>演習</u>)・実習)		授業担当者 天野光代	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期		<u>必修</u> ・選択	
[授業の目的・ねらい]					
1. 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な考え方を技術を学び、利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や原因について理解を深める。					
2. 他職種協働におけるチームのコミュニケーション方法の理解を深める。					
[授業全体の内容の概要]					
介護は対人援助に関わる多職種との協働によって成り立つ。 <u>家族も含めた介護におけるチームコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法（記録・報告・会議）について学ぶ。</u>					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 日々の生活支援に必要とされるコミュニケーション障害の評価の仕方や対応の基本を踏まえて、コミュニケーション障害を抱える利用者の生活支援に必要とされるコミュニケーション技術を習得する。					
2. チームのコミュニケーション能力を身につけるために必要な知識と技術を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	テーマ	授業内容			方法
1	対象者の特性に応じたコミュニケーション	コミュニケーション支援の基本			講義 演習
2		視覚障害・聴覚障害のある人への支援			
3		構音障害・失語症のある人への支援			
4		認知症・うつ病・統合失調症のある人への支援			
5		知的障害のある人への支援			
6		高次脳機能障害のある人への支援			
7		重症心身障害のある人への支援			
8	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり、助言・指導・調整			
9		家族関係と介護ストレスへの対応			
10	介護におけるチームのコミュニケーション	チームにおけるコミュニケーションの意義・目的			
11		報告・連絡・相談の意義			
12		記録の意義			
13		記録の方法と書き方			
14		会議・議事進行・説明の技術			
15	まとめ	まとめと振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座5 第2版 「コミュニケーション技術」			[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習態度等30%により総合評価とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 (講義) ・ (演習) ・ 実習)	授業担当者 天野光代	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修) ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する前提となる、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点による生活支援の基本的な考え方を学習する。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉士が利用者及び家族への生活を支援する為に修得しておかなければならない、個々人の尊厳に根差した、その人らしい生活とは何かを考える姿勢を身につける。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)]			
1. 「生活」とは何かを理解し、多様性のある利用者の生活を支援するためにはさまざまな視点・アプローチがあることを理解する。 2. 生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。 3. 介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	生活支援の理解	生活支援の基本的な考え方	講義 演習
2		その人らしさの理解	
3		生活支援と介護過程	
4		根拠ある生活支援技術	
5		利用者の生活を理解すること	
6		生活支援とチームアプローチ	
7	居住環境の整備	住まいの役割と機能	
8		生活空間	
9		快適な室内環境	
10		安全に暮らすための生活環境	
11	居住環境の整備における多職種との連携		
12	福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の重要性	
13		福祉用具の種類	
14		適切な福祉用具を選ぶための視点	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座6 第3版 「生活支援技術 I」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。 定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。終講時試験、レポートなどの総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)	授業担当者 内田智美 天野光代	
授業の回数 45	時間数(単位数) 90時間 (3単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識や技術や知識を取得する。			
[授業全体の内容の概要] 生ある者にとって生きる基本となる「移動」はすべての介護技術とも連動して行われる為基礎技術と応用技術を充実させて教授し、技術の修得を図る。 その人がその人らしく生活する為の衛生管理と楽しみとなることを目指した「身じたく」の介護のプロセスと方法を学ぶ。 人間として当たり前である安楽な睡眠の願いが果たされない高齢者や障害者の生理、心理を十分に理解し環境整備やベッドメイクを学び、利用者の心身状況や個別性に応じた臨機応変な安眠のための介護の力を養う。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 本人の尊厳と自立に向けた「移動」に関する介護技術が実践できる。 2. 本人の尊厳と自立に向けた「身じたく」に関する介護技術が実践できる。 3. 「睡眠」のしくみを理解したうえで、本人の尊厳と自立に向けた「睡眠」に関する介護技術が実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	内容	方法
1・2	自立に向けた移動の介護	自立した移動とは、移動・移乗の基本的理解、多職種連携	講義 演習
3・4		実技演習を始めるにあたり・ボディメカニクス	
5・6		ボディメカニクス・体位変換の実際	
7・8		体位変換の実際	
9・10		安楽な姿勢・体位を保持する介助	
11・12		歩行の介助	
13・14		車いすの介助①	
15・16		車いすの介助②	
17・18		福祉用具を使用した車いすの介助	

19・ 20		移動に関する実技の確認	
21・ 22	自立に向けた 身じたくの介護	自立した身じたくとは、身じたくの基本的理解、多職種連携	
23・ 24		洗顔・整髪・髭剃り	
25・ 26		爪の手入れ、口腔ケア	
27・ 28		口腔ケア	
29・ 30		衣服の着脱の介助（一部介助・かぶり）	
31・ 32		衣服の着脱の介助（一部介助・前開き）	
33・ 34		衣服の着脱の介助（全介助・前開き）	
35・ 36		衣類の着脱に関する実技の確認	
37・ 38	休息・睡眠の 介護	休息・睡眠とは、介護福祉職がすべきこと、多職種連携	
39・ 40		ベッドメイキング	
41・ 42		シーツ交換	
43・ 44		休息・睡眠に関する実技の確認	
45	まとめ	まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規 第1回～20回（移動） 最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第3版 第21回～36回（身じたく） 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第3版 第22回～44回（休息・睡眠） 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第3版		3分の2以上の出席は必須、実技試40%、定期試験40%、提出課題・授業態度等20%総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)	授業担当者 内田智美 天野光代	
授業の回数 45	時間数(単位数) 90時間 (3単位)	配当学年・時期 1年後期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識や技術や知識を取得する。			
[授業全体の内容の概要] 生きるうえで欠かせない食事と排泄介助の意義と目的を理解し、尊厳を基本とした自立に向けた基本的な技術の修得を目指す。人間らしく生きるうえで欠かせない入浴・清潔保持の意義と目的を理解し、基本的な技術の修得を目指す。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)]			
1. 本人の健康維持、楽しみを含めた自立に向けた食事の介護技術を修得する。 2. 本人の精神面に配慮し、自立に向けた排泄の介護における知識と技術を修得する。 3. 本人の状態に合わせた安全で自立に向けた入浴・清潔保持の介護について、実践できる知識と技術を修得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1・2	自立に向けた食事の介護	自立した食事とは、基本原則にのっとった食事の介護	講義 演習
3・4		多職種連携、食べるということ	
5・6		座位での食事介助	
7・8		臥位での食事	
9・10		誤嚥予防と食後の口腔ケア、多職種連携	
11・12	自立に向けた排泄の介護	自立した排泄とは、介護福祉職がすべきこと	
13・14		多職種連携、気持ちの良い排泄支援を考える	
15・16		トイレでの排泄の介助	
17・18		ポータブルトイレでの排泄の介助	
19・20		尿器、差しこみ便器での排泄の介助	
21・22		おむつでの排泄の介助	
23・24		おむつでの排泄の介助	
25・26		座薬、ストーマがある場合の介助	
27・28		頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応、多職種連携	
29・30		排泄の実技の確認	

回	テーマ	授業内容	方法
31・32	自立に向けた 入浴・清潔保持の 介護	自立した入浴・清潔保持とは、介護福祉職がすべきこと	講義 演習
33・34		入浴の介助	
35・36		特殊浴槽（機械浴）を使用しての介助	
37・38		全身清拭の介助	
39・40		部分浴の介助（手浴）	
41・42		部分浴の介助（足浴）	
43・44		洗髪の介助	
45	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規 最新・介護福祉士養成講座7 第3版 生活支援技術Ⅱ		3分の2以上の出席は必須、実技試40%、定期試験40% 、提出課題・授業態度等20%総合評価とする。	
第1回～10回（食事）			
第11回～30回（排泄）			
第31回～44回（入浴・清潔保持）			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅳ	授業の種類 ((講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 利用者一人ひとりの疾病や障害の基礎的な医学的知識を踏まえ、心身の状態・状況に応じた適切な介護技術が実践できるようさまざまな技術を習得する。また、災害時、緊急時、事故時、 <u>終末期等にも適切な介護</u> が提供できるよう他関連領域の知識を統合しながら理解する。			
[授業全体の内容の概要] 様々な心身の状態および様々な状況においても自立と安全・安楽に配慮した日常生活における基本的な生活支援技術が、根拠を理解したうえで実践できるよう講義と演習をしながら学んでいく。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 心身の構造や機能、および疾患を理解し、障害や疾病とともに生きる利用者に対する安全・安楽な自立支援を考えることができる。 2. ケアチームの一員として、多職種と連携を図りながらどのような状況下においても自立支援に向けた介護支援が考えられる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術	障害や疾病とともに生活する人を支える 肢体不自由に応じた介護	講義
2		視覚障害に応じた介護	
3		聴覚・言語障害に応じた介護	
4		重複障害<盲ろう>に応じた介護	
5		内部障害 (心臓機能障害) に応じた介護	
6		内部障害 (呼吸器機能障害) に応じた介護	
7		内部障害 (腎機能障害) に応じた介護	
8		内部障害 (膀胱・直腸機能障害) に応じた介護	
9		内部障害 (小腸機能障害) に応じた介護	
10		内部障害 (HIVによる免疫機能障害) に応じた介護	
11		内部障害 (肝機能障害) に応じた介護	
12		重症心身障害に応じた介護	
13		知的障害に応じた介護	
14		精神障害に応じた介護	
15		高次脳障害に応じた介護	
16		発達障害に応じた介護	
17		難病 (筋萎縮性側索硬化症・ALS) に応じた介護	
18		難病 (パーキンソン病) に応じた介護	
19		難病 (悪性関節リウマチ) に応じた介護	
20		難病 (筋ジストロフィー) に応じた介護	

21	応急手当の知識と技術	応急手当についてと応急手当の実際	
22	災害時における生活支援	災害時における介護福祉職の役割と実際	
23	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義と介護の役割①	
24		人生の最終段階の意義と介護の役割②	
25		死をむかえる人の介護①	
26		死をむかえる人の介護②	
27		死をむかえた人の介護①	
28		死をむかえた人の介護②	
29		人生の最終段階における多職種連携の必要性	
30	まとめ	まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>中央法規</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回～20回 <p>最新・介護福祉士養成講座8 第3版</p> <p>「生活支援技術Ⅲ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第21回～22回 <p>最新・介護福祉士養成講座6 第3版</p> <p>「生活支援技術Ⅰ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第23回～29回 <p>最新・介護福祉士養成講座7 第3版</p> <p>「生活支援技術Ⅱ」</p>		<p>3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度出席状況、レポート等30%により総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅴ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 小林駿仁		
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年後期	(必修)・選択	
[授業の目的・ねらい] 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を学習する。				
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士として修得しておく必要のある様々な「家事」の援助技術を修得していく上での基本行動の理解と知識、家事の介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活用できる能力や利用者の個別性に対応できるための能力を修得する。				
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 自立に向けた調理、掃除、買い物などの日常的な家事の知識と技術を修得し実践できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回	テーマ	授業内容	方法	
1	家庭生活の理解	食生活の基本知識・実技に関するオリエンテーション	講義 演習	
2・3	自立に向けた調理の 介護	演習1 基礎 御飯、すまし汁、炒りどり、お浸し		
4		食品群献立の立て方、栄養評価計算の仕方、次回演習に向けての準備		
5・6		演習2 高齢者介護食 お粥、減塩お味噌汁、炒り豆腐、ヨーグルトジュース		
7		前回の演習振り返り、糖尿病食、貧血食、次回演習に向けての準備		
8・9		演習3 高齢者介護食		
10		前回の振り返り、食中毒について		
11		裁縫—衣類の補修		
12		自立に向けた家事の 介護		衣類・寝具の衛星管理
13				買い物・家庭経営、家計の管理
14				他職種との連携
15	まとめ	まとめと振り返り		講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座6 第3版 「生活支援技術Ⅰ」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須、定期試験50%、提出課題 ・授業態度等50%総合評価とする。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修) 選択
[授業の目的・ねらい] 求められる介護福祉士像である専門職として自律的に「介護過程の実践的展開」を行うための専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力の考え方を理解する。			
[授業全体の内容の概要] すべてのケアは支援者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えた上で成立している。支援を提供する対象が誰であれ、どのような生活場面であれ、課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。その考え方の基礎を学習する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 介護過程の意義を理解したうえで、客観的な根拠に基づく介護の実践が可能になることを理解できる。 2. 「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の四つのプロセスについて基礎的な知識を理解し、介護過程を展開することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護過程 I	介護課程の意義・目的①	講義 演習
2		介護過程の意義・目的②	
3		展開のプロセス・基本視点①	
4		展開のプロセス・基本視点②	
5		介護課程と生活支援①	
6		介護過程と生活支援②	
7		介護過程の全体像①	
8		介護過程の全体像②	
9		アセスメント・「情報収集」	
10		アセスメント・「情報の解釈・関連づけ・統合化」	
11		アセスメント・「課題の明確化」	
12		アセスメントの実際①	
13		アセスメントの実際②	
14		アセスメントの実際③	
15		アセスメントの実際④	
16		計画立案・「目標の設定」「具体的な支援内容・支援方法の決定」	
17		計画立案・「目標の設定における留意点」	
18		計画立案の実際①	
19		計画立案の実際②	
20		計画立案の実際③	
21		実施・「実施の際の留意点」	
22		実施・「実施状況の把握・記録」	
23		実施の実際①	
24		実施の実際②	
25		評価・「意義と目的」	
26		評価・「評価の際の留意点」	
27		評価の実際①	
28		評価の実際②	
29		評価の実際③	
30		まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験60% 演習への姿勢等を総合的に判断し評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 天野光代			
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年後期			
必修 ・選択					
[授業の目的・ねらい] 利用者の望む生活の実現の為に、 <u>介護過程を展開</u> し介護サービスを提供する力を、演習および実習を通して習得する。					
[授業全体の内容の概要] 1. 事例演習を通し、思考過程のトレーニングを積むことにより、介護過程を展開する力を身につける。 2. 実習で実践的な介護過程の展開を行うことにより、適切な介護サービスを提供する力を身につける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 個別性が高く、かけがえのない人生に寄り添った支援を行う介護福祉士になるために必要な介護過程の展開を行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	テーマ	授業内容	方法		
1	介護過程Ⅱ	事例で学ぶ介護過程の展開	演習		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17		実習で学ぶ介護過程の展開	演習		
18		実習事例で学ぶ介護過程の展開	演習		
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27				実習発表	演習
28				まとめと振り返り	演習
29					
30					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験50%、演習や発表会への参加姿勢を総合的に評価する。			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 多職種協働によるチームケアを実践するために、「介護過程とチームアプローチ」について学び、チームで利用者を支えることの重要性、チームにおける介護福祉士の役割について介護過程を通して理解を深める。			
[授業全体の内容の概要] 事例や実習での事例を通して、地域における生活支援の実践やチームで利用者を支えることの重要性を理解できる。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程とケアマネジメントの関係性や、チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護過程Ⅲ	ケアマネジメントの全体像	講義
2		ケアプランと個別援助計画の関係性	講義
3		演習：社会資源①	演習
4		演習：社会資源②	演習
5		演習：ケアマネジメントと介護過程の展開①	演習
6		演習：ケアマネジメントと介護過程の展開②	演習
7		チームアプローチの意義	講義
8		チームアプローチの実際	講義
9		演習：チームアプローチの事例展開①	演習
10		演習：チームアプローチの事例展開②	演習
11		演習：チームアプローチの事例展開③	演習
12		実習発表会	演習
13		実習発表会	演習
14		実習発表会	演習
15		まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験50%、演習や発表会への参加姿勢を総合的に評価する。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 I	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代 他介護教員	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習での学びを深めるために、各領域で学ぶ知識と技術を統合し、介護実習の意義について理解し、1年次前期および1年次後期に実施される実習への事前準備を行う。そのことにより、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の目的、内容、実習先などについての概要を理解できる。 2. 実習施設の利用者像を理解できる。 3. 事前学習の意義と目的を理解できる。 4. 実習後学習の意義を理解し、主体的に取り組むことができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護総合演習 I	オリエンテーション	講義 演習
2		介護総合演習の位置づけとその目的の理解①	
3		介護総合演習の位置づけとその目的の理解②	
4		介護実習の種類とそれぞれの目的の理解①	
5		介護実習の種類とそれぞれの目的の理解②	
6		具体的な実習内容の把握と、実習要綱の確認①	
7		具体的な実習内容の把握と、実習要綱の確認②	
7		通所介護、訪問介護、グループホームについて①	
9		通所介護、訪問介護、グループホームについて②	
10		介護実習 I-1に向けて (実習配置の発表、各書類の確認)	
11		介護実習 I-1に向けて (各書類の確認)	
12		実習前後の学習の進め方との意義と目的について	
13		記録の重要性と実習日誌の書き方①	
14		実習日誌の書き方②	
15		各種書類の書き方①	
16		各種書類の書き方②	
17		実習心得・通勤の心得・礼状の書き方とその目的について	
18		実習振り返り①	
19		実習振り返り②	
20		実習 II-1に向けて (実習の目的) ①	
21		実習 II-1に向けて (実習施設の概要) ②	
22		実習 II-1に向けて (各書類の確認) ③	
23		実習 II-1に向けて (事前訪問に向けて) ④	
24		実習要綱その他必要書類の作成①	
25		実習要綱その他必要書類の作成②	
26		実習要綱その他必要書類の作成③	
27		実習要綱その他必要書類の作成④	
28		介護計画におけるアセスメントの取り組みに向けて①	
29		介護計画におけるアセスメントの取り組みに向けて②	
30		まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。レポート・提出物 60%、授業態度、演習等 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代 他介護教員	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年後期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 1. 1年次の実習の振り返りを通して、自己の取り組み課題を理解し、その改善に向けて取りくむことができる。 2. 実習のねらい・目的・目標を理解して、介護過程の展開・事例研究に取り組むことができる。			
[授業全体の内容の概要] これまでの実習の振り返りを行い、2年次に実施される実習施設について、実習施設の概要や利用者の特性を学習する。また実習終了後に報告会および事例研究として成果をまとめ発表し、 <u>介護実践を科学的に探究する姿勢を養う。</u>			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 利用者の自立支援、人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできる。 2. 報告会および事例研究をまとめることにより、介護福祉士の果たす役割について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護総合演習Ⅱ	実習Ⅰの振り返り①	演習
2		実習Ⅰの振り返り②	演習
3		実習Ⅱ-1の振り返り①	演習
4		実習Ⅱ-1の振り返り②	演習
5		報告会準備 (事例研究) ①	演習
6		報告会準備 (事例研究) ②	演習
7		報告会準備 (事例研究) ③	演習
8		報告会準備 (事例研究) ④	演習
9		報告会準備 (事例研究) ⑤	演習
10		事例報告会①	演習
11		事例報告会②	演習
12		事例報告会③	演習
13		介護実習Ⅱに向けて①	演習
14		介護実習Ⅱに向けて②	演習
15		まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。レポート・提出物 40% 報告会・事例研究への取り組み 60%	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習Ⅲ	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 天野光代 他介護教員	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	(必修) 選択
[授業の目的・ねらい]			
1. 実習の振り返りを通して、介護福祉士としての <u>自身の介護観</u> を育て、 <u>専門職としての自己研鑽の必要性</u> が理解できる。			
2. これまでの実習課題から自己の克服すべき課題を理解し、 <u>自身の福祉的価値観や介護観</u> を高めることができる。			
[授業全体の内容の概要]			
1年次の実習の振り返りを行い、 <u>2年次に実施される実習施設について、実習施設の概要や利用者の特性を学習する。</u>			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]			
1. 1年次の実習での課題を克服し、2年次に繋げることができる。			
2. 実習の目標を理解し、取り組むことができる。			
3. 利用者の生活課題を明確にし、介護過程を展開することができる。			
4. 実習後学習の意義を理解し、主体的に取り組むことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	介護総合演習 Ⅲ	1年次の実習振り返り①	演習
2		1年次の実習振り返り②	演習
3		施設の概要、実習の視点、実習心得、注意事項等の確認	講義・演習
4		実習に向けて (実習配置の発表、書類の確認等)	演習
5		事前訪問の留意点、実習目標の確認	演習
6		必要書類の確認と作成	演習
7		記録の書き方	演習
8		介護過程の展開についての留意点①	演習
9		介護過程の展開についての留意点②	演習
10		事例検討①	演習
11		事例検討②	演習
12		事例検討③	演習
13		事例検討③	演習
14		事例報告会	演習
15		まとめと振り返り	講義
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。レポート・提出物60% 授業態度、演習等40%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I (1年次)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u>)	授業担当者 天野光代 他介護教員							
授業の回数 —	時間数(単位数) 120時間 (2単位)	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> ・選択						
<p>[実習 I の目的・ねらい]</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>[実習 I 全体の内容の概要]</p> <p>週2回の分散実習として、介護サービス事業所（通所介護・通所リハ・訪問介護・グループホーム）で実習する。</p> <p>[実習 I 修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. <u>地域における生活支援の実践の場を知る。</u></p> <p>2. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。</p>									
<p>[実習 I 内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習施設のオリエンテーション 2 実習施設の概要を把握する。 3 1日のスケジュールを体験する。 4 各スケジュールの持つ意義について理解する。 5 言葉かけの重要性を利用者との関わりから学び、実践する。 6 コミュニケーションを通して社会的マナーや利用者に対する態度を学ぶ。 7 コミュニケーションを通して利用者の特性を知る。 8 専門職の業務内容を知る。 9 利用者の生活における介護サービスの必要性を知る。 10 地域のなかでの実習施設の役割を理解する。 <p>毎週水曜日・金曜日に実習</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">通所介護または通所リハ</td> <td style="padding-left: 20px;">5日間×8h</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">訪問介護</td> <td style="padding-left: 20px;">5日間×8h</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">グループホーム</td> <td style="padding-left: 20px;">5日間×8h</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">計 120 h</p>				通所介護または通所リハ	5日間×8h	訪問介護	5日間×8h	グループホーム	5日間×8h
通所介護または通所リハ	5日間×8h								
訪問介護	5日間×8h								
グループホーム	5日間×8h								
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 介護総合演習・介護実習		[単位認定の方法及び基準] 規定時間の出席、実習施設での実習状況を総合的に判断して評価を行う。							

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ-1 (1年次)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u>)	授業担当者 天野光代 他介護教員	
授業の回数 —	時間数(単位数) 160時間 (3単位)	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> 選択
<p>[実習Ⅱ-1の目的・ねらい]</p> <p>1. 講義・演習・学内学習で学んだ知識に基づいて、利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズの関する理解力・判断力を養う。</p> <p>2. 日常生活での介護技術が、基本を踏まえて実践できる。</p> <p>[実習Ⅱ-1全体の内容の概要]</p> <p>20日間の施設実習（障害者施設・介護老人福祉施設・介護老人保健施設）を行う。</p> <p>[実習Ⅱ-1修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 介護施設の特性、サービス利用者の特性を理解できる。</p> <p>2. 基本的な介護技術が実践できる。</p> <p>3. 利用者主体の個別ニーズを導くアセスメントが適切に行なえる。</p>			
<p>[Ⅱ-1実習内容]</p> <p>1 実習オリエンテーションを通じて、事業所の特性が理解できる。</p> <p>2 実践の場を通し、介護福祉士に求められる役割を理解する。</p> <p>3 利用者本人、家族等との関係性を構築するためのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>4 利用者を支えるためのチームケアの実際を学ぶ。</p> <p>5 利用者を支えるための多職種連携の在り方を理解できる。</p> <p>6 地域のなかでの施設の役割を理解できる。</p> <p>7 移動や整容など基本的な介護技術を習得する。</p> <p>8 介護過程の展開を通して、専門職に必要な考え方を理解できる。</p> <p>9 担当利用者を決め、情報を収集する。</p> <p>10 アセスメントを行う。</p> <p>11 生活上の課題を抽出する。</p> <p>12 利用者主体の個別のニーズを導く「アセスメント」の方法を習得する。</p> <p>13 社会生活の維持・拡大に向けての介護のあり方を理解する。</p> <p>14 記録の必要性を理解し、目的にあった客観的な記録が書ける。</p> <p>15 反省会を行う。</p> <p style="text-align: center;">20日間×8h 計160h</p>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 介護総合演習・介護実習		[単位認定の方法及び基準] 規定時間の出席、実習指導者および担当教員による総合的な評価を行う。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ-2 [2年次]		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u>)		授業担当者 天野光代 他介護教員	
授業の回数 —	時間数(単位数) 176時間 (4単位)	配当学年・時期 2年前期		<u>必修</u> 選択	
<p>[実習Ⅱ-2の目的・ねらい]</p> <p>1. 個別ケアを行うために一人ひとりのリズムや個性を理解し、本人の課題を明確にするための介護計画の作成、実施後の評価やそれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、専門職としての具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>2. 利用者の状況に応じた専門的な介護技術を習得する。</p> <p>[実習Ⅱ-2全体の内容の概要]</p> <p>22日間の施設実習（障害者施設・介護老人福祉施設・介護老人保健施設）を行う。</p> <p>[実習Ⅱ-2修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>1. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための<u>介護過程を実践的に展開</u>できる能力を身につける。</p> <p>2. 基本的な介護技術が実践できる。</p> <p>3. 本人の望む生活の実現のための<u>多職種協働の実践方法</u>を理解できる。</p> <p>4. 介護福祉士に求められる役割と理解を理解し、専門職としての態度を身につける。</p>					
<p>[実習Ⅱ-2内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーションを通して、施設の概要を知る。 2 地域のなかでの施設の役割を知る。 3 利用者本人、家族等との関係性を構築するためのコミュニケーションを学ぶ。 4 担当利用者を決め、情報を収集する。 5 アセスメントを行う。 6 生活上の課題を抽出する。 7 介護計画を立案する。 8 指導者の許可のもと、計画の実施を行う。 9 利用者の反応を受け、介護計画の評価を行う。 10 余暇活動を通じた支援を実施する。 11 他職種連携の実際を学ぶ。 12 チームの一員としての役割を学ぶ。 13 変則勤務を体験する。 14 利用者の個別性に合わせた介護技術を展開する。 15 目的に沿った客観的な記録が書ける。 16 カンファレンスおよび反省会を行う。 <p style="text-align: center;">22日間×8h 計176h</p>					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 介護総合演習・介護実習			[単位認定の方法及び基準] 規定時間の出席、施設実習および学内での状況を総合的に判断して評価を行う。		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I	授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)	授業担当者 竹中ツネ	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年前期	<u>必修</u> 選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護サービスを実際に提供する際の根拠となるよう、人間のこころとからだについて学び理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 心理学の諸理論に基づき、こころの側面を理解する為に根拠となる知識を習得する。また、からだの構造・しくみについて学び、支援の医学的根拠を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころとからだの相互作用について理解できる 2. 脳機能と関連する障害について理解できる。 3. 認知機能の基本を理解できる。 4. <u>こころのしくみ</u>について理解できる。 5. こころとからだの関係を理解することで、援助者として必要な対応を考えることができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	健康とは何か	健康の定義、「健康づくり」	講義
2		健康観、人はなぜ病気になるのか	
3	人間の欲求とは	基本的欲求と社会的欲求	
4		自己実現とはい	
5	自己実現と尊厳	自己概念に影響する要因	
6		自立への意欲と自己概念	
7		自己実現と尊厳、生きがい	
8		国際的な取り組み	
9	こころのしくみの基礎	「こころ」とは何か	
10		脳のしくみ	
11		学習・記憶・思考のしくみ	
12		感情・情動のしくみ	
13		意欲・動機づけのしくみ	
14		適応のしくみ	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)	授業担当者 竹中ツネ	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護サービスを実際に提供する際の根拠となるよう、生命維持に直接関与する医学的知識を学び理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人体の健康状態を医学的な観点から理解する。その上で利用者の健康状態を判断する基準や利用者の生活の困難さを図る基準となる知識を学ぶ。 その人らしく生きるための基本である「移動」に関するからだの構造・しくみについて学び、支援の医学的根拠を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>1. 個々の身体状況に合わせた<u>からだのしくみについて理解し</u>、自立に向けた適切な介護方法について根拠を明確にしながらか展開できる。</p> <p>2. すべての動作の基盤となる「移動」に関連したこころとからだのしくみについて理解し、介護の根拠を説明できる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	からだのしくみ	身体の構造と各部の名称、細胞・組織・器官・器官系	講義
2		呼吸器、循環器	
3		消化器、泌尿器	
4		骨、筋肉	
5		神経系、生殖器	
6		内分泌	
7		ホメオスタシス	
8	移動に関連したこころとからだのしくみ	なぜ移動するのか、基本的な姿勢、ボディメカニクス	
9		移動に関連したこころのしくみ	
10		移動に関連したからだのしくみ	
11		精神機能の低下が移動に及ぼす影響	
12		身体機能の低下が移動に及ぼす影響	
13		移動での観察のポイント	
14		移動での医療職との連携のポイント	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)	授業担当者 竹中ツネ	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個別性を尊重し、その人らしい「身じたく」の介護技術を提供することができるよう、必要な根拠を導き出す能力を養う。 健康に生きるうえで欠かすことができない「食事」「排泄」に関するこころとからだのしくみについて理解し、根拠に基づき「尊厳の尊重」「自立」を支援することを学ぶ学習とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>身じたくに関連したこころとからだのしくみを理解し、介護の根拠を明確にできる。</u> 2. <u>食事に関連するこころとからだのしくみを理解し、介護の根拠を明確にできる。</u> 3. <u>排泄に関連するこころとからだのしくみを理解し、介護の根拠を明確にできる。</u> 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	なぜ身じたくを整えるのか、 身じたくに関連したこころとからだのしくみ	講義
2		精神機能・身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響	
3		身じたくでの観察のポイント、医療職との連携のポイント	
4	食事に関連したこころとからだのしくみ	なぜ食事をするのか、 食事に関連したこころのしくみ	
5		精神機能の低下が食事に及ぼす影響	
6		身体機能の低下が食事に及ぼす影響	
7		食事での観察のポイント	
8	医療職との連携のポイント		
9	排泄に関連したこころとからだのしくみ	なぜ排泄をするのか、 排泄に関連したこころのしくみ	
10		排泄に関連したからだのしくみ	
11		精神・判断力の低下が排泄に及ぼす影響	
12		身体機能の低下が排泄に及ぼす影響	
13		排泄での観察のポイント	
14	医療職との連携のポイント		
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅣ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 角川志保	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 健康で人間らしく生きるうえで欠かすことのできない「入浴・清潔保持」「休息・睡眠」に関するこころとからだのしくみについて理解し、根拠に基づき「尊厳の尊重」「自立」を支援することを学ぶ学習とする。 「死」について医学的な観点から理解し、人生の最期の場面をその人らしく尊厳を持って支援することを考えることができる学習とする。 人の死をどのようにとらえ、理解するかを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</u>を理解し、介護の根拠を明確できる。 2. <u>休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ</u>を理解し、介護の根拠を明確にできる。 3. <u>終末期のこころとからだのしくみ</u>を理解し、介護の根拠を明確にできる。 4. 死生観について考えを深めることができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	なぜ入浴・清潔保持を行うのか 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	講義
2		精神機能・身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	
3		入浴が身体に及ぼす負担、観察のポイント、医療職との連携	
4	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	なぜ睡眠をとるのか、睡眠のしくみ、睡眠の質を高める	
5		休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下、睡眠障害	
6		睡眠での観察のポイント、医療職との連携、緊急時の対応	
7	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	死のとらえ方、看取りにかかわる人の価値観、終末期	
8		「死」に対するこころの変化、受容する段階、家族の受容	
9		身体機能の特徴	
10		臨終期の対応、死後のからだの変化	
11		死後のからだの変化、死後の連絡	
12		呼吸困難時の医療と介護の連携	
13		疼痛緩和時の医療と介護の連携、多職種連携	
14	死生観について	演習	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 第2版 「こころとからだのしくみ」		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 竹中ツネ	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 1. 人間の正常な成長・発達を理解し、それらが妨げられた場合にどのような障害が生じるのかを学ぶ。 2. 人間が成熟期から老化にさしかかるに当たって社会が高齢者を、どのように迎え入れて対応しているかを学ぶ。 3. <u>高齢者の心身機能の特徴と老化に伴う日常生活の変化</u> を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. <u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> ができる。 2. <u>老年期の発達課題と成熟</u> について理解できる。 3. <u>老化に関する心理や身体機能の変化の特徴</u> に関する基礎的知識を習得できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	成長・発達の考え方	成長・発達とは、環境的要因の重要性	講義
2	成長・発達の原則・法則	成長の順序性と方向性、パターンについて、	
3	成長・発達に影響する要因	遺伝的要因、ホルモンの影響、環境的要因	
4		遺伝的要因と環境的要因の影響に関する考え方	
5	発達理論	子どもも発見、さまざまな発達理論	
6	発達段階と発達課題	発達段階と発達課題	
7		各発達段階の概要	
8	身体的機能の成長と発達	身体的な成長と発達、運動機能の発達	
9	心理的機能の発達	ピアジュの認知発達理論、言語発達	
10	老年期の定義	老年期の定義、社会モデルからみた老年期の定義	
11	老化とは	老化の特徴、老化学説	
12	老年期の発達課題	老年期の発達課題、人格と尊厳・老いの価値	
13		喪失体験、セクシュアリティ	
14	老年期をめぐる今日的課題	日本の高齢化、現在の高齢者の多様性を理解する	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座12 第2版 発達と老化の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 (<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者 竹中ツネ	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年前期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 高齢者に多い疾患や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活援助技術の根拠となる知識の習得を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 老化に伴う心身の変化や高齢者を取り巻く周囲の環境、日常生活に及ぼす影響等について高齢者の気持ちを深く理解する。さらに、高齢者に多い疾患や老化に伴う機能低下が及ぼす影響などを理解し生活支援技術の根拠となる知識を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化という身体的・精神的・社会的変化が高齢者の心理に与える影響について理解できる。 2. 老化に伴う身体機能の変化が日常生活に与える影響について理解できる。 3. 保健医療職との連携について理解できる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	老化にともなう身体的な変化と生活への影響	加齢による生理機能の全体的低下	講義
2		身体的機能の低下と日常生活への影響	
3	老化にともなう心理的な変化と生活への影響	認知機能の変化、知的機能の変化と心理的影響	
4		パーソナリティ (性格) の変化、老化と動機づけ・適応	
5	老化にともなう社会的な変化と生活への影響	社会のなかでの生活上の課題・高齢者の社会的活動の現状と課題	
6		社会における老化理論	
7	健康長寿に向けての健康	高齢者の健康、サクセスフルエイジング	
8	高齢者に多い症状・疾患の特徴	症状・疾患の特徴、閉じこもり 廃用症候群・老年性症候群	
9	高齢者の多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系	
10		循環器系・呼吸器系・消化器系	
11		腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、歯・口腔疾患	
12		悪性新生物 (がん)、感染症、精神疾患	
13		その他	
14	保健医療職との連携	多職種連携	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座12 第2版 発達と老化の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 (<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者 角川志保	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年後期	<u>必修</u> ・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人の現状を理解する。また、認知症の原因となる主な病気や症状の特徴を学び、個々にあった的確なケアができるための知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症の原因となる病気やその症状の理解では、日常生活への影響として見られる中核症状、周辺症状について理解する。また、それらが及ぼす心理・行動について<u>医学的・心理的側面から見た認知症の基礎</u>を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の定義、脳病変と認知機能障害と生活障害の関係を理解できる。 2. 老化にともなう脳の変化を知り、認知症との関係や区別すべき症状を理解できる。 3. 脳の病変部位と中核症状の関係と、BPSDの定義と概要について理解する。 4. 認知症を取り巻く状況、歴史、ケアの今後の方向性について理解する。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>			
回	テーマ	授業内容	方法
1	認知症のある高齢者の現状と今後	認知症のある人の推移、有病率	講義
2	認知症とは何か	定義と診断基準、生活障害、全体像と特徴	
3	脳のしくみ	脳の構造と機能、認知症の病理、うつとアパシーの理解	
4	認知症の人の心理	不安・喪失感、うつと病識低下、うつの病態、心の理解	
5	中核症状の理解	中核症状について	
6	生活障害の理解	生活障害について	
7	BPSDの理解	BPSDの定義・要因と誘因、評価尺度	
8	認知症の診断と重症度	診断、認知症の重症度判定	
9	原因疾患と症状・生活障害	アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症	
10	認知症の治療薬	神経伝達物質の基礎的理解、アルツハイマー型認知症治療薬	
11	認知症の予防	予防の考え方、リスクを下げる要因と高める要因	
12	認知症の人を取り巻く状況	認知症ケアの変遷	
13	認知症ケアの理念と視点	認知症ケアの理念と認知症ケアにおける倫理	
14	当事者の視点から見えるもの	認知症の人の思い	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 第3版 認知症の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 角川志保																																																
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年前期	(必修)・選択																																															
[授業の目的・ねらい] 認知症の人を中心とした考え方を理解し、認知症の主症状が要因となつての日常生活への影響について学習する。また、利用者に対する確かなケア提供の知識、その家族へのサポート体制の取り組み方法について習得する。																																																		
[授業全体の内容の概要] 本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる支援のあり方を思考できる知識を身につける。サポート体制では、地域社会や社会制度等の人間関係や生活支援技術について理解を深める。認知症のある人を支える多職種連携・協働についても理解する。																																																		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. パーソン・センタード・ケアの考え方を理解し、実践のための3つのステップについても理解する。 2. 認知症の人のアセスメント方法や視点について理解する。 3. 認知症の人へのさまざまなアプローチの仕方を理解できる。 4. 家族への支援や、地域サポート体制等適切な援助方法を理解する。 5. 認知症の人とその家族を支えるための国が掲げている認知症施策を理解できる。																																																		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]																																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 35%;">テーマ</th> <th style="width: 45%;">授業内容</th> <th style="width: 15%;">方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>パーソン・センタード・ケア</td> <td>パーソン・センタード・ケアについて</td> <td rowspan="15" style="text-align: center; vertical-align: middle;">講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール</td> <td>認知症の人を理解するために、センター方式、ひもときシート、健康状態のアセスメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>認知症の人とのコミュニケーション</td> <td>認知症の人とのコミュニケーションの実際</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td rowspan="2">認知症の人へのケア</td> <td>I ADL障害のケア</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ADL障害のケア</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>認知症の人への様々なアプローチ</td> <td>ユマニチュード、バリデーション</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="2">認知症の人の終末期医療と介護</td> <td>高齢者全般および認知症の人の終末期医療と介護</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>認知症の人の終末期の課題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td rowspan="2">環境づくり</td> <td>環境と向き合う力、物理的な環境の重要性</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心地よい環境づくりとは</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家族への支援</td> <td>認知症の人の家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>介護福祉職への支援</td> <td>ケアモデルを実践するための環境整備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域包括ケアシステムにおける認知症ケア</td> <td>オレンジプランから認知症施策推進大綱へ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>多職種連携と協働</td> <td>基本的な考え方と必要な要素</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめと振り返り</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	授業内容	方法	1	パーソン・センタード・ケア	パーソン・センタード・ケアについて	講義	2	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール	認知症の人を理解するために、センター方式、ひもときシート、健康状態のアセスメント	3	認知症の人とのコミュニケーション	認知症の人とのコミュニケーションの実際	4	認知症の人へのケア	I ADL障害のケア	5	ADL障害のケア	6	認知症の人への様々なアプローチ	ユマニチュード、バリデーション	7	認知症の人の終末期医療と介護	高齢者全般および認知症の人の終末期医療と介護	8	認知症の人の終末期の課題	9	環境づくり	環境と向き合う力、物理的な環境の重要性	10	心地よい環境づくりとは	11	家族への支援	認知症の人の家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア	12	介護福祉職への支援	ケアモデルを実践するための環境整備	13	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	オレンジプランから認知症施策推進大綱へ	14	多職種連携と協働	基本的な考え方と必要な要素	15	まとめ	まとめと振り返り			
回	テーマ	授業内容	方法																																															
1	パーソン・センタード・ケア	パーソン・センタード・ケアについて	講義																																															
2	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール	認知症の人を理解するために、センター方式、ひもときシート、健康状態のアセスメント																																																
3	認知症の人とのコミュニケーション	認知症の人とのコミュニケーションの実際																																																
4	認知症の人へのケア	I ADL障害のケア																																																
5		ADL障害のケア																																																
6	認知症の人への様々なアプローチ	ユマニチュード、バリデーション																																																
7	認知症の人の終末期医療と介護	高齢者全般および認知症の人の終末期医療と介護																																																
8		認知症の人の終末期の課題																																																
9	環境づくり	環境と向き合う力、物理的な環境の重要性																																																
10		心地よい環境づくりとは																																																
11	家族への支援	認知症の人の家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア																																																
12	介護福祉職への支援	ケアモデルを実践するための環境整備																																																
13	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	オレンジプランから認知症施策推進大綱へ																																																
14	多職種連携と協働	基本的な考え方と必要な要素																																																
15	まとめ	まとめと振り返り																																																
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 第3版 認知症の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。																																																

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 内田智美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年前期	(必修)・選択
[授業の目的・ねらい] 障害に関する基礎的理解を深め、障害のある人の生活・体験等を通して、障害者の心理、生活状況を理解し、生活支援技術について理解する。			
[授業全体の内容の概要] 1. 障害の医学的側面、心理的側面の基礎をふまえ、障害のある人の生活について学ぶ。 2. 障害の知識及び具体的な症状とその背景や原因を知り、自立に向けた介護の重要性を学ぶ。 3. 医療職との連携のあり方について学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 障害者福祉の基本理念を理解する。 2. 障害の種類と概要を理解する。 3. 障害者(児)が抱えている生活課題を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	障害の概念	障害のとらえ方、ICIDHとICFへの変遷	講義
2		障害者の概数、障害者の定義	
3	障害者福祉の基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション	
4		国際障害者年、障害者権利条約、アドボカシー	
5	障害者福祉制度と	障害者福祉制度と介護保険制度の違い	
6	障害のある人の心理	人の欲求、適応機制、障害受容の過程	
7	肢体不自由	肢体不自由とは、障害の種類、障害の原因	
8	視覚障害	障害の原因となるおもな疾患の理解	
9	聴覚・言語障害	聴覚障害、言語障害	
10	重複障害	重複障害とは、原因と種類、重複障害児への支援	
11	内部障害	内臓、呼吸器、腎臓、膀胱・直腸、小腸機能障害	
12		ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能・肝臓機能障害	
13	重症心身障害	重症心身障害とは、原因と分類	
14		特性の理解、特性に応じた支援	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座14 第3版 障害の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 内田智美	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2年前期	
(必修)・選択			
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の生活・体験等を通して、障害者の心理、生活状況を理解し、生活支援技術について理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 精神、知的・発達障害、難病などの症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行う為の根拠となる知識を習得する。また、障害のある人の特性を踏まえたアセスメントを行い、自立に向けた支援を行う為に、地域におけるサポート体制や多職種連携・協働のあり方、家族への支援についても学習する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 障害の知識及び具体的な症状とその背景や原因を知り、 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> を考えられる。 2. 家族へのレスパイトケアなどの基本的視点について考えることができる。 3. 障害者の日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存能力・潜在能力の活用などを含め、生活支援技術と関連して考えられる。 4. 障害の種類や特性に応じた、医療との連携の必要性について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	テーマ	授業内容	方法
1	知的障害	知的障害とは、障害の原因	講義
2		特性に応じた支援、ライフステージに応じたかかわり方	
3	精神障害	精神障害とは、障害の種類	
4		障害の特性の理解、心理面・身体面・生活面の理解 特性に応じた支援	
5	高次脳機能障害	高次脳機能障害とは、障害の原因	
6		障害の特性の理解、特性に応じた支援	
7	発達障害	発達障害とは、障害ごとの特性の理解	
8		生活の特性と生活支援、保護者への支援、支援機関	
9	難病	難病とは、おもな難病の理解、特性の理解、特性に応じた支援	
10	地域のサポート体制	地域のサポート体制、障害福祉サービス提供のしくみ 相談支援事業所との連携	
11		基幹相談支援センターとの連携、協議会との連携 地域生活支援拠点との連携	
12	チームアプローチ	チームアプローチとは、チームづくりの方法 保健医療関係機関の業務	
13	家族への支援	家族に障害のある人がいるということ、家族支援とはなにか	
14		家族の介護力の評価、介護力をふまえた理解	
15	まとめ	まとめと振り返り	
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座14 第3版 障害の理解		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア I		授業の種類 (<u>講義</u> ・演習・実習)		授業担当者 角川志保	
授業の回数 3 4	時間数(単位数) 50時間(2単位)	配当学年・時期 2年前期		<u>必修</u> 選択	
<p>[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識と技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケア実施の基礎と喀痰吸引の基礎的知識および経管栄養の基礎的知識について理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアに関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解できる。 2. 喀痰吸引は医行為であることを理解し、利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供できるための知識と実施のための基礎を学ぶ。 3. 経管栄養は医療行為であることを理解し、利用者に対して、医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供できるための知識と実施の基礎を学ぶ。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回	テーマ	授業内容			方法
1	人間と社会	医療倫理、	1.5 時間	講義	50時間
2		医療関係者としておこなうべきこと			
3		保健医療制度			
4	保健療制度とチーム医療	医療チームの構成員の背景	2 時間	講義	50時間
5		各職種の業務の役割			
6		チーム医療の組み方等			
7		チーム医療の組み方等			
8	安全な療養生活	健康状態の把握	4 時間	講義	50時間
9		「喀痰吸引」や「経管栄養」の安全な実施			
10		リスクマネジメント			
11		救急蘇生法の手順とポイント・救急蘇生			
12	清潔保持と感染予防	感染予防(使い捨て手袋やマスクの使用方法)	2.5 時間	講義	50時間
13		介護福祉職の感染予防			
14		医療環境の清潔、消毒法 消毒と滅菌			
15	健康状態の把握	身体・精神の健康	3 時間	講義	50時間
16		健康状態を知る項目 (バイタルサインなど)			
17		脈拍測定・急変状態について			
18	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	11 時間	講義	50時間
19		呼吸のしくみとはたらき喀痰吸引			
20		人口呼吸器と吸引について			
21		子どもの喀痰吸引			
22		喀痰吸引にともなう感染予防			
23		危険及び安全確認			
24	家族の気持と対応	8 時間	講義	50時間	
25	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説				
26	喀痰吸引の必要物品と消毒法				
27	高齢者および障害児・者の経管栄養経管栄養概論	利用者の状態観察の留意点・報告及び記録	10 時間	講義	50時間
28		消化器系のしくみとはたらき			
29		経管栄養とは・経管栄養の種類・栄養剤			
30	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	子どもの経管栄養・家族の気持ちの理解と対応	8 時間	講義	50時間
31		経管により生じる危険。注入時後の安全管理			
32	経管栄養の必要物品・報告および記録	8 時間	講義	50時間	
33	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説				
34	経管栄養の必要物品・報告および記録				
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座15 第3版 医療的ケア</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須。定期試験70%、授業態度、出席状況、演習等30%により総合評価とする。</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケアⅡ	授業の種類 (講義)・(演習)・実習)	授業担当者 竹中ツネ・角川志保		
授業の回数 30	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年後期	(必修)・選択	
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 1. 喀痰吸引は医療行為であることを理解し、利用者に対して、医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供できるための実施の手順を学ぶ。 2. 経管栄養は医療行為であることを理解し、利用者に対して、医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供できるための実施の手順を学ぶ。 3. 医療的ケアの実施に伴い、急変時の対応について学ぶ。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 喀痰吸引 シミュレーターを用いて、一人で実施できる。 2. 経管栄養 シミュレーターを用いて、一人で実施できる。 3. 救急蘇生 シミュレーターを用いた救急蘇生の一連の流れを理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回	テーマ	授業内容	方法	
1	喀痰吸引のケア 実施の手引き	口腔内および鼻腔内	演習	
2				
3				
4				
5				
6				
7		経管栄養のケア 実施の手引き		気管カニューレ内部
8				
9				
10				
11				
12				
13	救急蘇生法			胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養
14				
15				
16				
17				
18				
19		まとめ		半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養
20				
21				
22				
23				
24				
25	まとめと振り返り			経鼻経管栄養
26				
27				
28				
29				
30				
[使用テキスト・参考文献] 中央法規 最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第3版		[単位認定の方法及び基準] 3分の2以上の出席は必須、演習は5回以上で手順通りにできること、その他提出物、授業態度、出席状況の総合評価とする。		